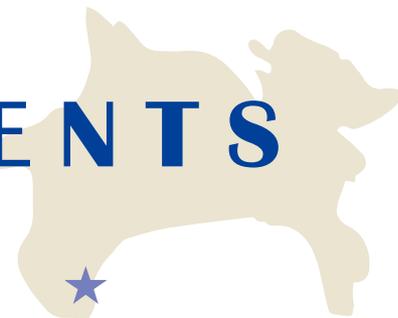


「地域生活支援拠点等の整備等に関する実態調査」
各自治体等の概要版

神奈川県 小 田 原 市

目次

CONTENTS



2

| **01** | 小田原市の概要

3

| **02** | 地域生活支援拠点等の整備プロセス、整備類型、概要

4

| **03** | 各機能の具体的な内容

6

| **04** | 地域生活支援拠点等のイメージ図

7

| **05** | 地域生活支援拠点等における支援の事例

8

| **06** | 地域生活支援拠点等の整備・運営における今後の課題・方針

- 人口 192,645人（平成29年8月1日現在）
- 障害者の状況（平成29年3月末現在）
 - ・身体障害者手帳所持者 6,328人
 - ・療育手帳所持者 1,602人
 - ・精神障害者保健福祉手帳所持者 1,135人
 - ・障害者数のうち、身体が6～7割、65歳以上の高齢者が多い
 - ・精神障害者保健福祉手帳所持者数、自立支援医療（精神通院）受給者数、療育手帳所持者数ともに増加
- 小田原市の位置



02 地域生活支援拠点等の整備プロセス、整備類型、概要

整備のプロセス

- 第4期小田原市障がい福祉計画（平成27～29年）策定時に検討
- 地域生活支援拠点等に必要な機能を備えている事業所（永耕園）の施設改修時期と重なったため、地域生活支援拠点等として整備

整備類型

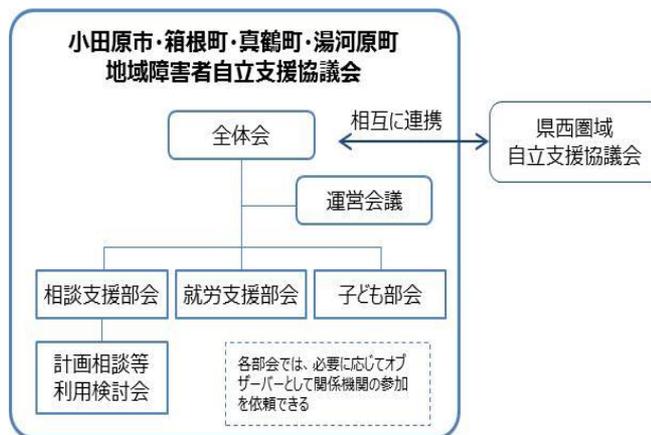
面的整備型

（「永耕園（施設入所支援、生活介護）」を中心とした面的整備。「永耕園」は母体が病院で障害児入所施設を運営しているほか、関連法人で高齢者施設を運営しているため、医療や高齢者関連、児童関連との連携も可能）

概要

- それぞれ専門性の高い分野（3障害+児童）をもつ事業所間での連携を図り、総合的に対応できる仕組みを構築
- 県の施設から専門分野のアドバイスを受けられる環境にあるが、さらなる人材育成による受け入れ対応が課題
- 高齢者施設へのスムーズな移行が課題
- 資源不足の近隣3町との相互利用の仕組みづくりが課題

（現時点では、「小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町地域障害者自立支援協議会」（1市3町）を設置し、情報共有を行っている）



相談

- 相談支援センターういずが、相談受付（日曜以外、8：30～17：00）
- 日曜、夜間の相談は、利用者を限定して所長が携帯電話で対応
- 相談支援センターういずを含めた4か所の委託相談事業所が専門分野（身体、知的、精神、児童）をもっているが、それぞれの事業所から「おだわら障がい者総合相談支援センタークローバー」へ人材を派遣してもらい、よろず相談として困難事例も含めサービスに結びついていない人の相談を中心に相談支援を行っている

緊急時の受け入れ

- 緊急時の依頼には市内の短期入所や精神科病院で誰でも受け入れを実施（通常完全に満床にならないようにしたり、車椅子使用者が2人部屋を1人使用している部屋があるため、緊急時にベッドを入れるなどで受け入れ）

体験の機会、場

- 2年前に永耕園に併設した短期入所（10床）の、2部屋の空床をレスパイトや体験に活用
- 施設入所者の地域移行を進めるため、永耕園が3か所のグループホームを開設。空室がある場合に体験に活用

専門的人材の確保・養成

- 強度行動障害や発達障害については、県の施設等を活用した研修への参加と支援のスキルアップにつなげる
- 小田原市障害児医療的ケア提供体制整備事業費助成金交付事業（市独自事業）により、医療的ケア児受け入れ事業者に人件費分を助成
- 神奈川病院のワーカーが定期的に相談支援事業所を訪問し、高次脳機能障害についてアドバイスを実施（市の取組）

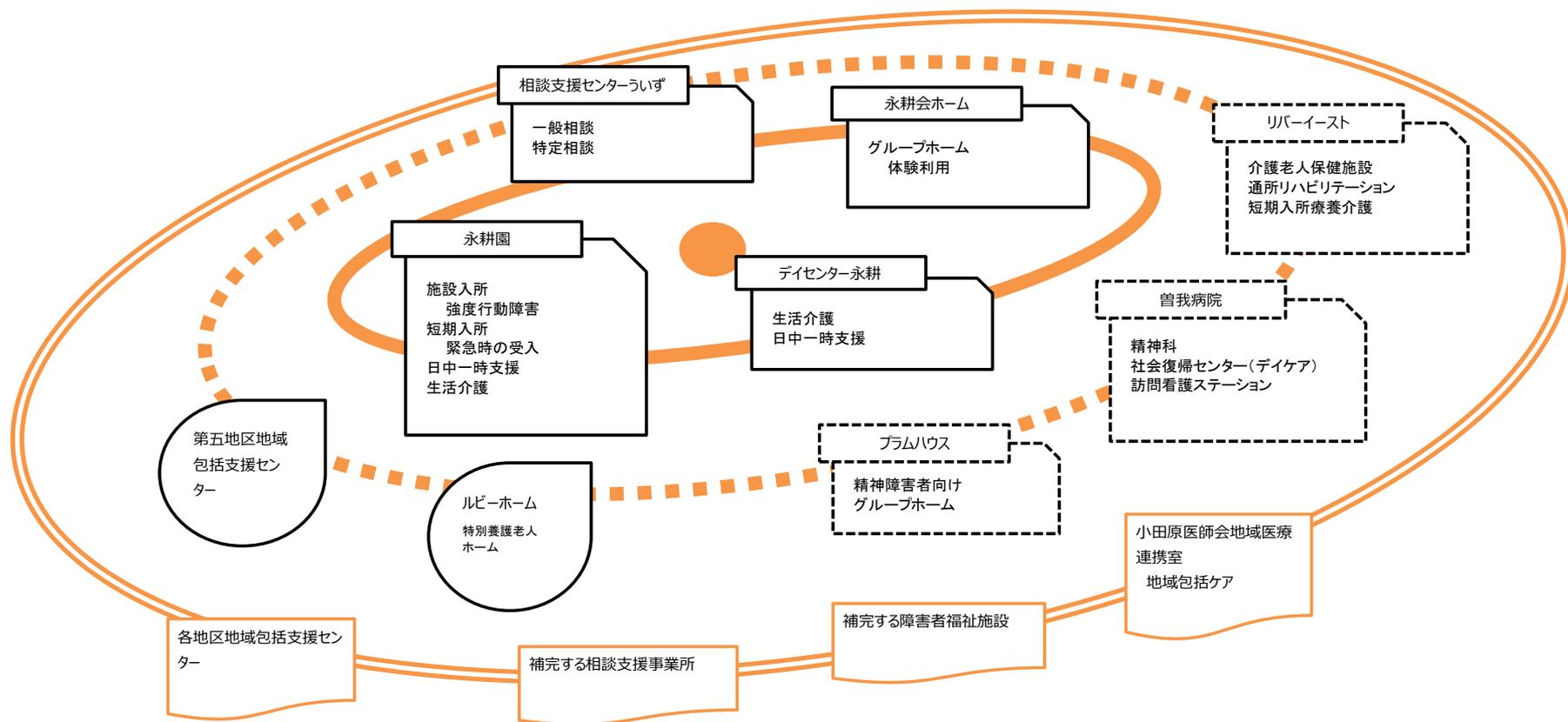
地域の体制づくり

- 相談支援事業所では、圏域の自立支援協議会や地域自立支援協議会の相談支援部会で、定期的に事業所連絡会や事例検討会を開催
- 地域自立支援協議会を中心にした関係機関とのネットワークづくり
- 事業所間の連携が日頃から充実（福祉協会主催の運動会や文化祭、研修、施設の見学会などで事業所同士が月1回は顔合わせ）

その他

「ー」

- 「永耕園（施設入所支援、生活介護）」を中心とした面的整備
- それぞれ専門性の高い分野（3障害+児童）をもつ市内の事業所間で連携を図り、総合的に対応できる仕組みを構築



利用事例

1

利用者の属性

- ・40代男性、療育手帳A 2、統合失調症、障害支援区分4
- ・両親、きょうだいと同居していた
- ・中学卒業後、調理師専門学校に進学し、調理師免許を取得
- ・市内の事業所で一般の常勤職員として採用され、調理師として勤務していたが、コミュニケーションがうまく取れないことで、職場内でいじめに遭い精神的に病み、精神科病院に通院した。休職後退職し、療育手帳を取得

利用した経緯

- ・家族と生活していた20代の頃より妄想幻覚状態が現れ、精神科病院に入退院を繰り返す。統合失調症による入院が長期化し、両親も高齢になり、在宅生活が困難な見通しとなり、本人と家族から、退院後はグループホームと通所サービスを利用したいという強い要望を受けた
- ・相談支援専門員の支援により、複数のグループホーム、通所事業所の体験利用後、現在のグループホームと生活介護事業所の利用につなげた

利用の効果等

- ・生まれ育った地域で生活を続けることができ、本人や家族ともに安心感がもっている
- ・両親と同居していた頃は、家族がゆえに関係性が濃密になり、特に母親とは良好な関係が築けずいたが、今は毎週末に帰宅したり立ち寄りなどして、物理的にも精神的にもよい距離が保っている
- ・日中活動、グループホーム、計画相談支援で同一法人が関わっているが、それぞれの立場で適切に連携し、一体化した支援体制が取れている

利用事例

2

利用者の属性

- ・女性
- ・家族から虐待を受けていたことで、障害児入所施設を経て、障害者入所施設に入所

利用した経緯

- ・市内・他県の入所施設等を転々としていたが、どこでも飛び出すので退所させられ、精神科病院に入院。精神科という限られた空間の中では落ち着けるタイプ
しかし、精神科の治療対象ではないと判断され、小田原市のケースワーカーが相談にのり、永耕園に入所
- ・集団生活より、自分のことをきちんと見てくれるパーソナルな空間がある方が落ち着いて生活できると思われたため、グループホームに入居
- ・入居当初は飛び出すことが多く、その度に職員が丁寧に関わった
- ・精神科の服薬も行った

利用の効果等

- ・8か月経過後くらいからようやく落ち着いてきたため、グループホームから日中活動の生活介護に通うようになった。現在、何とか落ち着いた生活に戻れるようになっている
- ・このような入所者を地域生活に出すことは難しいが、グループホームという空間で職員が丁寧に対応し、試行錯誤の支援の中で落ち着いた生活を送る事が出来るようになった

● 高齢者施設へのスムーズな移行の仕組みづくりを進行中

知的障害の入所施設全般で高齢化が見られ、経管栄養や胃ろうの対応が課題になっているため、医療的ケアが必要な高齢障害者は、高齢者施設に移行する仕組みを作る方向にある

● 精神障害者の地域移行が課題（市の取組）

市と病院で、「精神障害でもどのような人が地域に戻れるか」というモデルを試みたが、地域に帰っても本人が不安定で病院に戻るケースがあり、課題となっている

● ピアサポーター活動を検討中（市の取組）

県西地域の2市8町（小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町）の事業で、南足柄市の事業所が受託して、退院支援でピアサポーター活動を行っている

障害者団体からピアサポーター活動の要望があるため、市として、来年度に向けてピアサポーター活動の検討を進めている